発 行 日／令和7年（2025年）10月1日

第13号

山口市 農業委員会だより

発行／山口市農業委員会
編集／広報委員会





主な内容

委員会活動の紹介 …… 2P
地区担当 …… 3P
女性委員の活動について …… 4P
各地の話題 …… 5P

麦秋のひとコマ（名田島）

〒753-8650　山口県山口市亀山町２番１号　Tel. 083-934-2882　E-mail：noui@city.yamaguchi.lg.jp

農業委員会活動の紹介

研修を実施しました



研修会では熱の入った話し合い

山口市農業委員会では、農地転用の許可事務に加え農地等の利用の最適化の推進や農家の良き相談相手となるなど、多岐にわたる働きが求められています。そのため、年間を通じて会議や研修を通して知識の習得や問題意識の醸成を図るなど様々な取り組みを進めています。

その一環として8月7日にKDDI維新ホールにおいて研修会を開きました。当日は講師を招いて農業委員会の置かれた状況や国内各地の事例について紹介いただくとともに、業務において必要となるコンプライアンスに関する問題についても学び、法令遵守の重要性について理解を深めました。

今回の研修では、農業を取り巻く課題解決に向けたグループ討議も行い、農業の現状について課題解決に向けての話し合いを行いました。

山口市は広大であることから、地域の地理的条件や農業の形態もそれぞれ異なります。グループ討議では、課題に対する悩みや困っていることを整理することで委員間の相互理解を深めるとともに、課題の克服に向けた手立て等の洗い出し作業を通じて、農業の振興に向けて今後は何が必要とされるかなど、認識を同じくすることができました。

◆　◆

8月21日には佐賀市農業委員会の視察を受け入れました。

農業生産の盛んな佐賀市の委員12名との意見交換を通じて、県域を越えての情報交換が行われ、互いの農業委員会活動の推進において貴重なヒントを得ることができました。



佐賀市農業委員会の視察を受け入れました

新　農地利用最適化推進委員の紹介

新しく着任しました。よろしくお願いします。

令和7年3月1日　着任
山縣（やまがた）　和夫（かずお）　委員
担当地区　秋穂二島地域



令和7年10月1日　着任
山見（やまみ）　一郎（いちろう）　委員
担当地区　阿東徳佐地域



山口市農業委員会地区担当

地区協	農業委員	推進委員	担当地区	
北　部	荒瀬　澄枝 小野　基之 中川恵美子 安野　正純	岡村　洋治	仁　保	井開田東･西、高野東･西、両浴、野上、坂本、松柄、原河内、一貫野
		栗林　重成	仁　保	仁保市、土井、高松、丸山、東園、深野
		竹下　明誠	仁　保	揚山、金坪、大畠、一之瀬、北河内、高畠
		池田　善治	小　鯖	国道262号の東側
		重宗　政人	小　鯖	国道262号の西側
		岡本　公一	大　内	県道21号の南側
		西村　和男	大　内	県道21号の北側
中　央	片山　潤之 徳田　文雄 吉武　和子	徳本　　優	山　口	大殿、白石、湯田
		藏重　保治	宮　野	全域
		古屋　金人	宮　野	全域
		山崎　英俊	吉　敷	全域
		井本　幸助	平　川	全域
		芳西　孝春	平　川	全域
		重枝　　隆	大　歳	全域
川　東	小野　　悟 中野　克俊 西村　　健 藤原　敏郎 八木　　学	前川　俊雄	陶	百谷川･南若川の東側
		三輪　裕將	陶	百谷川･南若川の西側
		友光　俊夫	鋳銭司	四辻、岡(南)、大円、上辻、黒山、河原、今宿東･西、大村、南、道ノ上
		野村　賢治	鋳銭司	小森、扇田、西ノ浴、和西、畑、天神原、鷹ノ子、岡(北)
		秋本　安男	名田島	向山、新開作
		神田　一夫	名田島	島、東開作、西開作、昭和
		藤村　敏浩	秋穂二島	二島、南、惣在所、禰宜
		山縣　和夫	秋穂二島	上田、大里、長浜、岩屋、幸田、仁光寺
		河内　　豊	秋　穂	大河内北･南、天神町、浜中、北･中条、井南、浜内、小浜、赤崎、日地
		田中　雅美	秋　穂	中野、東･西天田、宮の旦
		田中　光明	秋　穂	金山領、西･先青江、中道、花香南･北、中津江、屋戸、加茂、浦東、祇園町、下村、黒潟北･南
川　西	恒冨　竹司 長尾　誠大	森本　　一	嘉　川	全域
		山根伊都子	嘉　川	全域
		上野　省一	佐　山	全域
		原田　正男	佐　山	全域
		中村　丈二	小　郡	全域
		藤津　俊二	小　郡	全域
		田邊　文雄	阿知須	全域
		松﨑　繁秋	阿知須	全域
徳　地	上田　正士 安田　敏男	尾﨑　伸充	出　雲	深谷、小古祖、堀(才谷、関、旭、堀、本町、西川、伏野上･下、中村、須路)
		徳田　敦之	出　雲	伊賀地、岸見、堀（上佐、上佐団地、上･下庄方、漆尾、開作、二の宮）
		嘉本　一明	島　地	藤木、島地、山畑
		金本　和行	島　地	上村、藤木
		末常　　衛	串	鯖河内、串
		粟屋　富次	八　坂	三谷、八坂（サッカー広場の南側）
		伊藤三枝子	八　坂	船路、八坂（サッカー広場の北側）
		木村　　誠	八　坂	引谷
		國長　廣治	柚　野	柚木、野谷
阿　東	伊藤　良一 井上浩一郎 賀屋　忠之	堀　　裕道	徳　佐	徳佐上、徳佐中(坂手、水戸、片山、上･下宇津根)
		山見　一郎	徳　佐	徳佐中（東畑、原山、羽波、上市東･西、駅通、栄町、中市、下市、小南、貞行、丸山、平丸）、徳佐下
		山根　久子	篠　生	篠目、生雲東分
		伊藤啓一郎	生　雲	生雲西分、生雲中
		村上千代春	生　雲	蔵目喜、生雲中
		中山　隆之	地　福	全域
		吉松　敏博	地　福	全域
		矢次　和久	嘉　年	全域

農業委員の主な仕事

- 総会、地区協議会において、農地転用等の可否について審議します。
- 農地利用最適化推進委員と協力して農地の集積等有効活用を推進します。
- 農地利用の最適化施策の改善についての意見書を提出します。

農地利用最適化推進委員の主な仕事

- 担当地域において、担い手への農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消など、農地利用の最適化の推進活動を行います。
- 地区協議会等に出席し、地域の報告や意見を述べます。

女性委員の活動について

山口市農業委員会では女性の農業委員3名、農地利用最適化推進委員3名が在籍し、農地の状況確認や農家の相談相手になるなど様々な活動を行っています。今回は委員同士のネットワークづくりを中心に、活動の一部をご紹介します。



女性登用に向けた申し入れを行いました

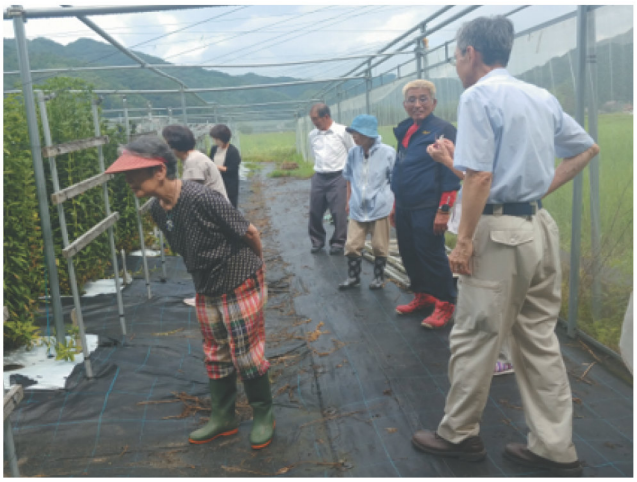
農業委員　中川恵美子

私が山口市農業委員に任命されてから20年が経過しました。これまで、父から譲り受けた農地で主人と共に二人三脚で頑張ってきました。団塊の世代生まれの私たちは、今や後期高齢者となりましたが、未来の農業に夢を抱き愛着を持ち続けています。

平成21年に、山口県下の農業委員会女性委員で構成する「山口県農業委員女性協議会」が発足し、「この指とーまれ！女性の絆で広い農地に未来の種まきを！」という協議会スローガンのもと、様々な活動を展開しているところです。現在の会員数は77人（農業委員50人、推進委員27人）で、女性委員が全委員に占める率は19・7％となっていますが、山口市では女性委員が占める率は15・8％となっています。

女性委員が地域の指導者として活躍できるよう資質向上を図ることと、委員相互の交流連携を深めることを目的として、中国四国9県の女性委員が集う「中国四国ブロック農業委員会女性委員研修会」が毎年行われており、「山口県農業委員会女性協議会」からもこの研修会に参加しています。鳥取県で開催された昨年の研修会には、山口県からは16名の女性委員が参加し、テーマに沿ってグループディスカッションをしながら、他県の女性委員との交流を図りました。

その他にも「山口県農業委員女性協議会」では、全体研修会を年2回開催し、また県内を3ブロック（東部・中部・西部）に分けてのブロック研修会を毎年行っており、女性委員の登用に向けた各地での取組事例の紹介や、意見交換が行われています。さらに、委員の改選時にあわせて、ブロックごとの市町首長と農業委員会会長に対して、女性登用へ向けての要請も行っています。


各地の先進地を訪ねて視野を広げます

山口市農業委員会としましては、女性委員のネットワークづくりとして、女性委員による各地の農家訪問を実施しています。令和5年には徳地地区の法人土里夢（とりーむ）しまじのリンドウ団地、安田ぶどう園、山の芋畑などを見学し、私たちとしても、多くのパワーをいただきました。

また、委員個々の活動としては、食育活動への取組を積極的に行っているところです。私が暮らす大内地区では、地域の皆さんと共同して新鮮で安心安全な野菜を販売する「大内ふれあい市」で、学校給食への地元食材の提供を行っています。また、毎年小学2・3年生の児童たちを「町探検隊」として受け入れ、中学2年生の「職場体験学習」では生徒と二日間共に働くことで、食の安全や農業の大切さを学んでもらっており、これから農業への関心を深めるきっかけになれば幸せと思っています。


中国四国の研修会では積極的に意見発表

現在、農業は大きな変動の時期を迎えています。地域計画、都市近郊農家や家族農業のあり方、地域との繋がり等様々な課題があります。こうした中、行政やＪＡ等の関係機関が連携し、生産者と消費者が情報を共有し連携しあい、男女が助け合いながら所得向上につながる農業ができるような地域社会づくりを目指したいと思っています。

二島の野菜作りを担う三人の女性
秋穂二島地区　株式会社藤村農園

山口市の野菜生産の多くを秋穂二島地区が担っています。その中で株式会社藤村農園の取組が注目されています。幸崎干拓を中心に年間を通しての多種多量の野菜作り、タマネギ等の育苗、新鮮野菜のパック詰めセンターの設置等多くの事業を展開しています。それを支えているのが農業大学出の大木さん・上本さん・石田さんの三人の若い女性社員です。

令和2年に大木さん、上本さんが入社した当時は若い女性がやって行けるのかと私なりの危惧もありましたが、暫くして暑い日に干拓のほ場で作業をしていると、隣のほ場に大木さんが一人で来て溝口を開けていました。干拓のほ場は40アール前後で畝の数も多くかなりきつい作業となりますが手際よく作業を済ませ帰って行きました。唖然と感心したのを覚えています。

機械作業やスマート農業に憧れる人は多いと思いますが、野菜作りには人の手を多く必要とし俗に言う百姓仕事は不可欠です。

三人の現状とこれからの思いを尋ねました。

大木さんは、今では百姓仕事はもとより大型農業機械の操作、整備等もこなし農場長として農園の作業全般に目を配っている存在だと伺っています。今後は経営面も学びいずれは独立することも考えています。



左から大木さん、石田さん、上本さん

上本さんは、育休明けで従前通り育苗や各種野菜栽培の責任者として活躍、益々たくましくなっています。今はここで働けることに感謝し精いっぱい働いていきたいとのこと。

石田さんは、令和5年入社、持ち前の若さと農大で培った技術をもとに育苗、専門分野の野菜栽培に尽力されています。今後は、農業初心者、アルバイト希望者等に農作業のコツと楽しさを伝えたく、その為に自分自身の農業技術をもっと研いていきたいそうです。

藤村社長も三人には全幅の信頼があり任せっきりが出来ると太鼓判を押しています。農業に携わり続ける若い人が近くにいることは地域のさわやかな希望となっています。

～各地の話題～

川東地区協　藤　原　敏　郎
阿東地区協　吉　松　敏　博

地域計画達成に向けた取り組み
阿東地福地区　中山ファーム株式会社


代表の中山推進委員

当該株式会社は、平成21年に設立されました。社長は農地利用最適化推進委員でもあります中山隆之氏です。設立のきっかけは地域の高齢化とともに田を預かってほしいとの声が大きくなりその期待に応えるため、預かっていたらいつの間にか30㌶程度となっていました。農事組合法人の設立も考えましたが、預かっている農地の地主さんが、高齢、地区外の不在者が多かったため、株式会社として運営していくこととしました。

現在の経営規模は、水稲を中心に作付けをし、農地面積約100㌶で、うち地福地区80㌶、徳佐地区20㌶となり、地福地区でいえば全体の水稲作付面積の約25％を集積しています。作付け品種は「コシヒカリ」を中心として、作期分散のため、「日本晴」を作付けしています。次年度はできれば高温耐性と収量性に優れた「にじのきらめき」を試験的に栽培したいと考えています。

従業員は、男性7名、女性2名です。また、米の駅（直売所）も運営し、阿東地区の特産品も含め消費者への直接販売も行っています。

現在の問題点は、地域のほ場整備が完了し40年程度経過し、畔の老朽化（畦畔に石）による草刈り作業の負担増、盤が沈み不均平による排水不良が問題です。

今後の取り組み

今後も地域の皆さんの要望に応えるために受託面積を拡大して行きたいのですが、実現させるためには、さらなる団地での集積を進めなくてはならないと考えています。そのためには昨年地域計画が策定されましたが、地域の担い手さんと話し合いを行い、水系ごとでの農地の入れ替えを行い農地の団地集積を進めていくことがポイントと考えます。


地域の声に応えて農地を守っています

試行錯誤の中、イチゴ栽培に挑戦

嘉川地区　畑谷敏之（はたや としゆき）さん


見事に並ぶイチゴハウス

嘉川地区でイチゴ栽培に取り組んでおられる畑谷敏之さんをご紹介します。

畑谷さんは京都でゴルフ場支配人を勤めていましたが、親族の介護の必要性から山口の実家に帰省。介護をしながらできる仕事として農業を始めました。イチゴハウス・野菜水耕栽培を検討し、農業認定のレクチャーを受け令和5年9月に認定農業者となりました。イチゴハウス栽培を決意し、自宅周りの農地に農業用ハウスが完成しました。

イチゴの品種を「紅ほっぺ」「さちのか」「エンジェルエイト」に決定し、苗の入手に入るとともに岩国の知人よりイチゴ栽培の指導を受け、苗を分けてもらい栽培を開始。販売先確保の為、営業も開始。道の駅きららあじす・ＪＡほか近隣スーパー等と契約が取れ、ハウス完成後に植え付けを開始。

以後、様々な苦労の末、令和6年1月にイチゴの出荷を開始しましたが、初年度は猛暑の影響で苗の育成が悪かったことや4月には白いイチゴにダニが発生し株が枯れてしまうなど、売り上げは想定を下回りました。



令和7年1月より順調に出荷。宇部の市場ではバイヤーに白いイチゴが高評価され、3月より契約出荷を開始。今年5月初出荷終了し、今期の売上は好調でした。全ての経過を公表しましたが、サラーリーマンから農業に転職し、試行錯誤の毎日で後悔することなく頑張っておられます。


ハウスの中の畑谷さん

～各地の話題～ 若手農家さんの奮闘記



川西地区協　山　根　伊都子
阿東地区協　吉　松　敏　博

目指せ　経営規模100㌊

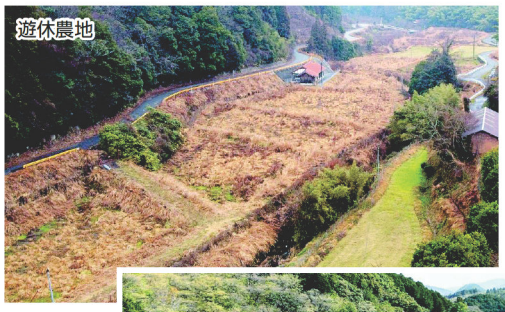
阿東篠生地区　しらまつファーム株式会社


代表の白松さん

しらまつファームは阿東篠生地区の道の駅長門峡近くに事務所を構えています。会社設立は令和6年2月で設立2年目です。代表は白松由行さん46歳です。元々父親が農家ではあったのですが高齢と体の不調により後を継ぐことを決意。どうせするなら農業一本でやりたいという思いで始めることとしました。当初は阿東地区内での農地集積を考えていましたが、なかなか農地が見つからず、一山超えた萩市野戸呂地区に数年前からまとまった荒廃農地があることを知っていたので、地権者や集落の方に話をしたら是非預かってほしいとの事で、農地中間管理機構の遊休農地解消対策事業を活用して農地の整備を行いました。また、周辺農家の方も離農したいので是非預かってほしいとの事で、面積集積することができました。

経営内容は、水稲栽培で、篠生地区12㌊、萩市8㌊の20㌊です。作付け品種は「にじのきらめき」12㌊、「コシヒカリ」5㌊「その他」3㌊です。従業員は1人で、その他農繁期や草刈り作業の際、アルバイトの方を4名程度雇っておられます。

今後経営を安定させるために農地のさらなる集積が必要で目標経営面積100㌊を目指しています。しかし、中々農地が見つけられないのが現状です。作業効率化を図るためには、自宅事務所から車で15分圏内での農地集積を考えています。篠生地区においても高齢化が進み、水稲作付がされていない農地も目立ってきています。そういうほ場も農地を再生して地域貢献に努めたいと意気込んでいます。


遊休農地


再生農地

今、わたしにできることを

徳地堀地区　武石智絵（たけいしちえ）さん


菌ちゃん畝を作るお手伝い

大阪で介護職をしていた私は、以前より田舎暮らしに憧れていたこともあり、2020年に結婚を機に徳地へ移住することになりました。

夫と家業を継ぎ電線周りの支障木伐採の仕事を始め、美しい自然が豊かな徳地の印象だけしかなかったところに、この仕事と関わることで山や田畑が荒廃している現実を目の当たりにすることとなりました。

地域にあるたくさんの竹。これらを資源として活用することで厄介者の竹が逆転の発想で「美味しく食べて竹林整備」をする純国産メンマプロジェクトと出会い、そこから全国の仲間や地域の方と共にメンマつくりや竹炭づくりなど、活動を展開しています。

今年は徳地に個人的に山林田畑付きの古民家を購入し、防長2号窯という炭窯も新設しました。古民家や森林資源の活用を通じてたくさんの方とのご縁が繋がる、そのような場所にしたい思いです。

竹の活用や炭づくりも農業に繋がることが多く、微生物いっぱいの健康な土づくりを目指しています。畑ではカワラケツメイやキクイモ、シルクスイートなどを育て始めました。梅、柚子、クワ、榧、ヨモギなど、先人が残されてきた地域の資源を大切につないでいきたいです。

私自身、農業はほとんど未経験に近いのですが、仲間や地域の先輩方に助けてもらいながら、今、私にできることを少しずつ、丁寧に。

全くの未熟者です。皆様からのご指導をいただけますよう、この場をお借りしてお願いいたします。



やまぐち芋フェスでの武石さん夫妻

～各地の話題～ 若手農家さんの奮闘記



徳地地区協　伊　藤　三枝子
北部地区協　岡　本　公　一

脱サラして榊栽培農家へ

大内地区　大上都夢（おおがみとむ）さん


周囲の方のサポートに非常に感謝

幼少期の物心ついた頃、母が榊栽培の生産と出荷を行っており、ラベル貼りをたまに手伝っていました。これと言って興味を持っていたわけではなく、神棚にどこの家にも飾ってあるという感覚でした。昔から榊が枯れると金枯れるという言い伝えは忘れられません。

31歳の時脱サラして無我夢中でとにかく自分が納得できるまで試行錯誤しました。当初はサイズもバラバラで失敗ばかりでした。これほど榊栽培が難しいとは思いもしなかったが徐々に周りの方々のサポートもあって最近はきれいな形、納得できる作り方が出来るようになったと感じています。

榊は挿し木から出荷するまでは相当の年月と手間がかかりますし、最近の異常気象や社会情勢なども含めて予断を許さない状況です。国外産に負けないように榊栽培にスイッチを入れ直して拍車をかけたい。高齢化も進み荒廃農地が増える中で若者の農業離れがあってはならないと思っております。農業に興味がある若者の支援もお願いしたいです。先ずは荒廃農地の有効活用が身近にでき、それに伴う情報発信をして環境づくり、地域活動が出来ると嬉しいです。

数年前大内地区の某地区に引っ越して農業委員会の方の協力もいただきありがとうございました。地域の仲間も出来て作業を手伝ってくれるようになり嬉しいです。地域の一員として溶け込み魅力的な農業を発信していきたいです。榊栽培にもエンジン全開で軌道に乗せたいです。今後とも応援のほどよろしくお願いします。


作業中の一コマ

農業委員会事務局からのお知らせ

農地を転用するとき



■農地の転用とは

田や畑または、果樹園などの農地を、住宅等の建物、資材置場、駐車場、再生可能エネルギー設備、山林等、農地以外の用地として利用することをいいます。また、一時的に資材置場等として利用する場合も転用（一時転用という）になります。

農地を転用する場合には、農業委員会の許可を受けなければなりません。

農業振興地域の農用地区域内の農地は、区域からの除外申請が必要であり、補助金交付や納税猶予を受けている農地を転用する場合は、補助金の返還や納税の義務が生じることもありますので、転用の計画がありましたら、必ず事前に農業委員会事務局に御相談ください。

※無許可での転用や許可内容と異なる目的に転用した時には、厳しい罰則が定められており、場合によっては原状回復を含めた是正指導が行われます。

※自己の農地を利用・保全するために、農地に水路・農道等を整備したり、2アール未満の農業用施設を建設する場合は届け出が必要となります。

老後生活への備えは十分ですか？

女性農業者の皆さんへ
農業者年金ご存知ですか？



- 農業者年金は「終身年金」ですので、女性の長い老後を**しっかりサポート**します。
- 経営協定を結べば**保険料の国庫補助**も受けられます。
  女性の農業経営への参画を**しっかり応援します！**
- 保険料が全額社会保険料控除の対象で、**高い節税効果！**

※農業者年金の加入には、
「国民年金第１号被保険者であること」
「年間６０日以上農業に従事していること」
「６０才未満であること」
の３つの要件を満たしている必要があります。
※詳しくは、お近くの農業委員会、又はJAへ！

詳しくは…農業者年金基金 検索
https://www.nounen.go.jp

農地を活かし、担い手を応援する
全国農業新聞
新規購読者募集中！
お申込みは農業委員会へ
週刊 金曜日発行
月700円／年8,400円（消費税・送料込）

表紙写真について

今号は名田島地区の麦秋の光景をお届けします。

黄金色に染まったほ場では、刈り取り作業の傍ら、麦わらをとっておく作業がみられました。

編集後記

今回の農業委員会だよりは、皆様への情報提供として、女性委員の活動や市内６地域の農家の活動を掲載いたしました。

農家の後継者育成、荒廃農地の解消は、大きな課題ですが、情報を共有し、課題解決に近づければと思います。

農業委員会の委員は、農家の代表として、諸課題に取り組んでいます。今後とも御理解御協力をお願いします。

広報委員
委員長　小野　悟
委　員　伊藤三枝子
井上浩一郎
岡本　公一
友光　俊夫
原田　正男
藤津　俊二
三輪　裕將
山崎　英俊

問い合わせ先：農業委員会事務局/電話.083-934-2882